

## 人間能力開発世界会議で認められる

私が初めてドーマン博士の協会を訪れたのは、昭和48年5月の事です。その年はフィラデルフィアで開催されることになってみた、第6回人間能力開発世界会議に出席するやう、ドーマン博士に誘はれてみたからです。会議は5日間位に亘ったかと思ひますが、その間、博士の家の一室に寝起きして会議に通った事は、一生忘れることの出来ない懐しい想ひ出です。

私は、この会議の3日目に、「幼児期の漢字教育は幼児の智能を著しく高める」といふ事について、その事実とその理由について発表しました。会議が終わった後のセレモニーで突然「プロフェサー・イサオ・イシイ」と名前を呼ばれ、前に出て議長から「人類の進歩に寄与する研究であった」といふ賞状と共にゴールドメダルを頸に懸けて貰ひました。続いてドーマン博士が立ち、「一国の教育を根柢から覆すやうな主張は、その人の生存中に受け容れられる事は先づ無い。所が、それが既に多くの幼稚園に受け容れられ、実践されてゐるといふ。石井教授は実に羨しい程幸福な人である」と祝福してくれました。すると、満場の学者たちが一人残らず起立して拍手を始めました。その万雷のやうな拍手は、私が席に戻り、着席するまで止みませんでした。これらの事も私

には一生忘れられない想ひ出です。

ドーマン博士の協会で、漢字教育が実践されるやうになったのは、「幼児期の漢字教育は幼児の智能を著しく高める」といふ私の発表を深く理解され、それを堅く信じて下さったからだと思ひます。ドーマン博士が仰ったやうに、「新しい大きな真実は、それを主張した人が生存してゐる間は受け容れられないのが普通である。然し、永遠に受け容れられない事は無い」と思ひます。私は、21世紀には「漢字が国際的な文字になり、世界の人々の意思の疏通に役立ってゐる」ことを予言して置きます。